九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日本語の引用句におけるジェンダー表現 : 大学生の自然談話を中心に

陳, 一吟
九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程

松村, 瑞子
九州大学大学院言語文化研究院言語環境学部門 : 教授 : 言語教育学講座

https://doi.org/10.15017/21795

出版情報：言語文化論究. 28, pp.23-36, 2012-03-02. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

日本語の引用句におけるジェンダー表現
――大学生の自然談話を中心に――

陳　　一　吟・松　村　瑞　子

九州大学大学院言語文化研究院　言語文化論究　第28号　平成24年2月発行　抜刷

Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
Motooka, Fukuoka, Japan

STUDIES IN LANGUAGES AND CULTURES, No.28, February 2012

日本語の引用句におけるジェンダー表現

――大学生の自然談話を中心に――

陳　　一　吟[1]・松　村　瑞　子

1.　はじめに

自分もしくは自分以外の人の発話を引用する際、元々の発話とまったく同じものを再現することはほとんど不可能である（鎌田 2000）。引用する元発話の伝達内容は同じであっても、その中に含まれている伝達態度が引用者によって創造されたり、場や相手に合わせて再構築されたりする場合がある。

陳が採集した会話 1 と会話 2 を参照されたい。

会話 1 ：F15、M21、M22 が何日前に M21 が寮のある深刻な話題を巡る話し合いの場に自分のご飯を持って行ったことに対して語り合う。

F15：（笑）ていうか、M21 君どんな内容だったか知ってたでしょ？
M21：（笑）①知ってましたけど、なんか、その時なんかもう、＃＃頭の中にご飯しか、味噌汁しかなかった…
F15： あ、お腹減ってたんだよね？（笑）
M21：①はい。もう頭の中ご飯しか入ってない。ぜんぜん何も考えてなかったんですよ。はずかしい。
M22：うん、大丈夫、M21 ちゃん可愛いって。俺は、それを言われたいが、って狙ってたじゃないかって（笑）
F15： まあ、ただ、②いま一年生だからみんな大目に見てるけど、上になってくるとね、質悪くなってくるからね（笑）

会話 2：会話 1 が行われた次の日、F15 がその内容を F12 に告げる。元発話①②を引用したものはそれぞれ引用句①´②´である。

F15：①´もうご飯のことが頭でいっぱいでってゆった（笑）
F12：（笑）食べてからこい！
F15： 昨日は②´年下だから皆まだ可愛いって思ってくれるけど、こう
F12： あれが年上だったらほんとだめ（笑）
F15： あいつに、②´質悪いよってゆって。（笑）

上記の例から分かるように、元発話①②が両方とも違う形の引用文①´②´になっている。両方とも簡略化された上で言い換えられていることが分る。①´は二つある長い①の元発話文を最小限の簡潔な言葉でまとめ、さらに元話者の M21 の年上に対する丁寧な姿勢も言いさし表現の「で」で再現

[1] 九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程 3 年

した。F15 の自分の発話に対する引用句の②´は比較的柔らかい文末表現「からね」が強い主張を表す「よ」に言い換えられ、元発話に隠れている強い伝達態度が引用文においては露わになっている。

このように、自分もしくは自分以外の人の発話を引用する際、通常は元の発話の特徴に基づいてその発話を言い換える。このことは既にいくつかの先行研究で指摘されてきた（Clark&Gerrig1990；鎌田 2000 等）。その中で、鎌田（2000）は発話を引用する際、実際に元話者が使用していると考えられない男性的な表現が使われる現象を指摘し、ジェンダー表現が引用に影響を与えることを示唆した。元々の発話にないジェンダー表現が組み込まれたり、消されたり、変更されたりすることが想像される。そこで、本研究は引用表現におけるジェンダー表現の扱い方を観察することで引用句において男性的表現・女性的表現が持つ表現効果、その使われ方に関する制限、およびそこに潜む社会的規範を明らかにすることを目的とする。

以下の鎌田（2000）の例を参照されたい。

会話 3　ある大学総長（60 歳前半、男性）が国から表彰され、その大学の教職員による祝賀会で述べた本人のスピーチ

まあ、「お前ようやってきた、ほめてやるぞ」というようなことで賞を頂いたのですが…

伝達者が引用文で伝達を行う際、様々な表現が可能となる、伝達時に様々な言語形式の中から伝達者があえてジェンダー表現を組み込むことは、伝達者がどのように表現したいか、そしてジェンダー表現はどのような言語機能を担うかということが反映されると考えられる。そして、伝達者が自分の表現意図に基づいてまったく自分の発想で表現を作っているわけではなく、その表現が担う言語的、社会的な意味も考慮して選択していると考えられる。そこで本研究では、引用文に使われるジェンダー表現に焦点を当てて、男性的表現・女性的表現が持つ表現性の違いを考察する。さらに、その違いに反映される言語的、社会的要因を解明したい。

2.　先行研究

2.1 「引用」について

「引用」とは何かについては統語論と語用論によって見解が異なる。本稿では、実際の使用状況を調査するという目的と引用表現の創造的な効果に注目して、語用論的な立場をとる鎌田（2000）の定義、「ある場で成立した思考ないしは発言を別の発言の場に取り込む行為」を採用する。さらに、発話（自分・他者）の引用以外、思考（自分・他者）の引用も引用として認める。

引用句の創造性について言及した研究は、Clark &Gerrig（1990）、メイナード（1997）、鎌田（2000）、高崎（2010）等が挙げられる。Clark &Gerrig（1990）は“markedness theory”（標示理論）を提唱し、どのような言語表現が直接引用されようと、そこには元々の表現の完全な再現があるのではなく、元々の表現がどのようなものであるかというデモンストレーションがなされ、そのデモンストレーションは元々の表現のある特徴を標示し、それを描写することで伝達行為を成り立たせるとし、引用は「再現」ではなく、「デモンストレーション」であるとしている。メイナード（1997）は「引用内容は確かにだれかが言ったことをレポートとするのではなく、あくまで引用者の創作であり、それは引用者の『声』、視点、発想法を表現する一つの表現手段である」と引用において元話者と引用者の両者の「声」が同時に存在していることを明らかにした。鎌田（2000:18）は「直接引用といえども、元の発話・思考とは何らかの関係を保ちつつ、『再現』という域を越えた新たな場における新たな発話・思考を『表現』していると考えなければ説明がつかない言語事実がある」と指摘し、「引用句創造説」を提唱した。また、石塚（2003）は「引用」には、元々の話し手のメッセー

ジ（元発話）の内容を伝えるという情報伝達の機能の他に、元々の話し手（元発話者）がどのような人格の持ち主であるのか、元発話者と元々の聞き手がどのような関係であるのか、元々の聞き手や最終的に元発話を引用する者（伝達者）が元発話についてどう考えているのかなど、さまざまなことを伝える機能を持っているとしている。高崎（2010:243）は「引用表現が、テクストや談話の目的にかなうように、選択され、配置されている」と指摘している。これらの研究は「引用表現」に含まれている創造的な要素の存在を明らかにした。

引用句をマークする引用マーカーとして、「と」、「って」、「とか」、「みたいな」、「なんて」が挙げられる。その中で、単純に引用句をマークする「と」と「って」と比べて、「とか」、「みたいな」、「なんて」はそれ以上の表現性を持っていると考えられる。例えば、メイナード（2007）は「みたいな」は、「引用として括ることで、客体化する態度や心理的な距離感などを伝える機能を果たす」という「みたいな」の「ソフト化」機能を指摘した。また、辻（1999）によると「とか」「みたいな」は「あいまい表現」の一種であり、「発話内容を不特定化」に機能するものである。同様に、メイナード（1994）は「なんて」「とか」の「自己発話の緩和用法」を指摘している。以上の研究に指摘されているように、「とか」、「みたいな」、「なんて」は引用句の発話内容を緩和する役割を持っていると考えられるが、引用マーカーになるという点は「と」「って」と同様であるので、本稿ではこれらの引用マーカーによる引用も含めて考察を進める。

2.2　ジェンダー表現について

本研究で言う「ジェンダー表現」とは、因（2003）の定義に従い、「発し手の性別を示唆する発話の特徴」とする。本研究では、さらに「ジェンダー表現」を「男性的表現」と「女性的表現」に分ける。「男性的表現」とは、話し手が男性であることを示唆する表現のことで、「女性的表現」とは、話し手が女性であることを示唆する表現のことである[2]。

具体的な表現については、本研究では、典型的なもののみ取り扱うこととし、日本文法大辞典（1981）、マグロイン・花岡（1997）、田窪・益岡（1992）、小川（1997）等を参照し、「男性的表現」「女性的表現」の範囲を表１に示す通りに分類した。

表１　本研究の研究対象となるジェンダー表現

	男性的表現	女性的表現
終助詞・助動詞類	ぞ、ぜ、だろ、さ、な、よな、かい、のか	わ↗（わよ、わね、わよね）、かしら、のよ、のね、名詞＋よ／よね、なの
感動詞	おい、こら	あら、まあ
美化語		例：お台所、お写真
人称代名詞[3]	おまえ、君、こいつ、あいつ	
崩れた音声	例：ない→ねー	
分らない→分からん		
ぞんざいな語彙表現	例：大きい→でかい	

[2] 一口に「ジェンダー表現」と言っても典型的に「男性的」・「女性的」と言われるものから、どちらかというと「男性的」・「女性的」と言われるものまで様々なものがあり、グラディエーションを持つが、本研究は典型的なもののみ取り扱うことにする。

[3] 第一人称代名詞の「僕」「俺」「あたし」等は絶対的な男女差があるため、本研究の対象外とする。

命令表現	例：～てくれ、黙れ	
禁止表現	例：するな	

ジェンダー表現には、主に伝達内容や聞き手に対する話者の意図や態度を表現する機能があるため、話者の特徴はジェンダー表現を通じて表現できる。ジェンダー表現が表現するものについて言及した研究は数多く存在している。男性的表現は荒っぽく断定的で、会話における自分の主導権を示す働きがあるのに対して、女性的表現は柔らかく丁寧で、相手の領域や決定権を侵害しないように配慮を示す働きがある（マグロイン花岡 1997；鈴木 1997）。

フィクション作品（小説、漫画、ドラマ等）におけるジェンダー表現について、金水（2003）は「男性語」･「女性語」は男性･女性と結びつく「役割語」であるとしている。同様に、佐竹（2003）はフィクションの中の「女ことば」が、「やさしい、おとなしい、かわいい、あるいは、上品な女」などの望ましい「女らしさ」についての知識や規範を受容者に刷り込んでいくと指摘している。それだけではなく、女性的表現は「高圧的態度」のしるしとして「嫌み」や「攻撃的な会話」に使われることもあるとの指摘もある。（因 2003,2006, 山路 2006, 水本・福盛・高田 2008）

一方、自然会話における「男性的表現」･「女性的表現」について、金水（2003）は個々の話し手は仮面の一部として＜男性語＞＜女性語＞を用いる （例:「おかま」「ニューハーフ」） とした。水本･福盛（2007）はドラマと比較して、現実社会における若い女性たちの間からは、主張度の強い場面等に関わりなく女性文末詞が消滅しつつあることを示した。このように、フィクションにおけるジェンダー表現の表現効果と実際の会話におけるそれらの使われ方には隔たりがあることが既に指摘されている（水本・福盛 2007；金水 2003）。つまり、フィクションにおけるジェンダー表現と実際の会話におけるジェンダー表現の使われ方とは機能が異なる。しかし、今までの研究では、実際の会話、特に引用句に注目してジェンダー表現の使われ方と機能に着目したものは管見の限りあまり見られない。

2.3 引用とジェンダー表現について

鎌田（2000）は男性が女性の発話を引用する際、実際にその女性が使用していると考えられない男性的な表現を使う現象を提示し、ジェンダーが引用に影響を与えることを明らかにした。例 3 を参照されたい。

会話 4：（鎌田 2000 より）男性の伝達者がその奥さんの発話を同僚の男性に報告している：

そうなんだよ、ほら、これ、わかめのぬたっちゅんだろ。これが食いたくてね、作れってっても、このすみその具合が分からねえって言うんだよ、うちのやつは。

この例では、奥さんが元々使っている表現が男性のスタイルに変更されている。伝達者が「このすみその具合が分からない」というような中性のスタイルを選択することもできるし、「このすみその具合が分からないのよ」という女性のスタイルを選択することもできるはずである。しかし、ここでは、伝達者があえて男性のスタイルを選択しているのは、奥さんの「力強い拒否感をマークする」ためであるとしている（鎌田 2000：54）。このように、伝達者が引用句で伝達を行う際、様々な表現が可能となるが、伝達者がそれらの言語形式の中からあえてジェンダー表現を組み込むことは、伝達者の表現意図、そしてジェンダー表現のもつ言語機能が反映すると言えるであろう。また、伝達者は自分の表現意図に基づいて、自分の発想のみで表現を作っているわけではなく、その表現

が担う言語的、社会的な意味も考慮して選択していると考えられる。

陳（2011）はテレビの雑談番組をデータに日本語の引用句におけるジェンダー表現の使われ方を調査した。その結果、男性的表現が女性的表現より広く多く使われていること、女性的な表現は殆ど伝統的なステレオタイプの女性像を描き、元話者が殆ど女性であったのに対して、男性的表現は「力強さ、荒っぽさ、冷淡さ」等所謂「男性らしさ」と結び付いており、男女を問わず使用されていることが示された。この結果から、「男性らしさ」が必ずしも男性と結びついているわけではないのに対して「女性らしさ」は殆ど女性と結びついているというジェンダーにおける非対称性を提示した。本稿では、自然談話を用いて陳（2011）の結果を検証しながら、自然談話ならではのジェンダー表現の機能を解明することで、自然会話とテレビ談話番組における表現性の違いも分析する。

3.　データおよび研究方法

本稿では20代の大学生を被験者にし、2007年11月から2011年の6月まで福岡県にある国立大学の学生自治寮の寮生を対象に収集した自然会話のデータを用いる。本稿における自然会話とは、日常生活の中で無意識のうちに行われる言葉のやりとりである。テレビドラマ、小説等の文学作品の中でみられる台詞のように、作品の内容に応じて脚本家に脚色されて書かれたものでもなく、会話参加者の人数があらかじめ決められて、決まったテーマについて被験者が行う会話でもない。データ収集に関しては、倫理上の問題のため、調査対象者に対して録音をする際、録音することを改めて被験者に伝えるという形式をとった。被験者が緊張したり、意識的に普段と違う話し方をしたりして不自然な会話になった場合、その会話データを削除することにした。したがって、削除の可能性を考慮に入れて会話データを大量に収集し、その中から自然会話を選び出して文字化した。その結果、49場面[4]で合計11時間12分程の会話を文字化した。表2に、調査対象者の属性について出身、学年、年齢、入寮期間で整理したものを示す。男性をM、女性をFで表示し、その後に番号をつける。データ収集の期間中に学年が移り変わったり、メンバーが入れ替わったりするため、それぞれの調査対象者が録音を開始した時点を基準に学年を記述する。被験者は合計45人で、学部生が27人、大学院生が18人である。男女の割合は（男性：女性）＝（7：4.5）【男性27人、女性が18人】となっており、男性の方が多いという構成になっている。平均年齢は男性23.1歳、女性22.3歳、全体の平均は22.9歳である。

表2　調査対象者の属性

調査対象者	出身	学年（録音開始時点）	年齢	入寮期間
M1	宮崎県	修士2年（2007年11月）	24	4年目
M2	福岡県	修士1年（2007年11月）	23	1年目
M3	広島県	学部卒（2007年11月）	23	2年目
M4	広島県	修士1年（2007年11月）	24	6年目
M5	東京都	学部4年（2007年11月）	23	3年目
M6	大阪府	学部3年（2007年11月）	23	1年目
M7	岡山県	学部5年（2007年11月）	23	2年目
M8	静岡県	学部4年（2007年11月）	23	3年目
M9	長野県	修士1年（2007年11月）	27	3年目

[4] その中の47の場面は寮内で録音したもので、2つの場面はその学生寮の寮生が寮外で行う会話である。そのため、会話に参加した寮外者の3人も調査対象者として扱う。

M10	静岡県	修士 2 年（2007 年 11 月）	24	4 年目
M11	宮崎県	修士 2 年（2007 年 11 月）	24	1 年目
M12	埼玉県	学部 4 年（2007 年 11 月）	23	3 年目
M13	兵庫県	学部 3 年（2008 年 4 月）	21	1 年目
M14	鹿児島県	修士 2 年（2008 年 4 月）	27	2 年目
M15	鹿児島県	修士 1 年（2008 年 4 月）	24	1 年目
M16	愛媛県	学部 3 年（2008 年 4 月）	21	1 年目
M17	岡山県	学部 3 年（2009 年 4 月）	21	1 年目
M18	岡山県	学部 4 年（2009 年 4 月）	22	2 年目
M19	島根県	学部卒（2009 年 4 月）	23	1 年目
M20	東京都	博士 3 年（2009 年 4 月）	26	OB
M21	和歌山	学部 2 年（2011 年 4 月）	20	2 年目
M22	神奈川	修士 1 年（2011 年 4 月）	22	1 年目
M23	広島県	学部 4 年（2011 年 4 月）	21	1 年目
M24	福岡県	修士 1 年（2011 年 4 月）	22	2 年目
M25	大阪府	修士 1 年（2011 年 4 月）	25	1 年目
M26	兵庫県	修士 2 年（2011 年 4 月）	23	3 年目
M27	宮崎県	学部 4 年（2011 年 4 月）	23	1 年目
F1	大分県	学部 4 年（2007 年 11 月）	22	4 年目
F2	大分県	学部 4 年（2007 年 11 月）	22	4 年目
F3	大阪府	学部 4 年（2007 年 11 月）	24	3 年目
F4	宮崎県	学部 3 年（2007 年 11 月）	22	2 年目
F5	福岡県	修士 1 年（2007 年 11 月）	23	1 年目
F6	大阪府	学部 3 年（2007 年 11 月）	20	1 年目
F7	福岡県	学部 4 年（2007 年 11 月）	22	4 年目
F8	宮崎県	学部 3 年（2007 年 11 月）	22	1 年目
F9	大阪府	学部 3 年（2008 年 4 月）	22	1 年目
F10	沖縄県	学部 4 年（2009 年 4 月）	23	1 年目
F11	熊本県	修士 2 年（2010 年 4 月）	24	寮外者
F12	長崎県	学部 4 年（2010 年 4 月）	22	1 年目
F13	福岡県	学部 4 年（2010 年 4 月）	22	寮外者
F14	鹿児島県	学部 4 年（2010 年 4 月）	22	寮外者
F15	福岡県	修士 1 年（2011 年 4 月）	23	1 年目
F16	宮崎県	修士 1 年（2011 年 4 月）	22	1 年目
F17	佐賀県	修士 1 年（2011 年 4 月）	22	2 年目
F18	山梨県	学部 2 年（2011 年 4 月）	22	1 年目

分析に際して、まず、会話データから引用句を抽出し、さらに引用句からジェンダー表現を抽出した。引用句として認めるものは、その直後に引用マーカーの「と」（という）、「って」（っ[5]）、「とか」、「みたいな」、「なんて」が使用されているものが殆どであるが、マーカーが省略されているものもわずかながらある[6]。引用者の性別（女性・男性）、元話者が誰か（女性・男性・不定[7]・自分）によって分類し、男性的表現、女性的表現の使用回数を算出した。また、前述したように「と」・「って」と比べて「とか」・「みたいな」・「なんて」は引用句の発話内容を緩和する機能を持っているため、表現上の違いを考慮し、引用マーカーを以下のように2種類分ける。

と類：「と」（という）、「って」（っ）、マーカーなし

緩和類：「とか」、「みたいな」、「なんて」

さらに、それらの表現が現れる文脈を参照しながらそれぞれの表現の機能を観察した。

4.　結果・分析

4.1 量的結果

量的結果では、女性的表現が1か所しか現れなかったのに対して、男性的表現は76か所あった。表3に男性的表現の内訳を示す。2種類の引用マーカーをそれぞれ何回使ったかも【　】の中に示す。

表3　男性的表現の内訳

元話者[8]／引用者[9]	男性	女性	不定	自分（発話）	自分（思考）	総数
男　性	25【と類16／緩和類9】	1【と類1】	7【と類6／緩和類1】	2【と類2】	11【と類11】	46【と類36／緩和類10】
女　性	5【と類3／緩和類2】	2【と類2】	6【と類2／緩和類4】	8【と類5；緩和類3】	9【と類7／緩和類2】	30【と類19／緩和類11】

表3に示されているように、男性的表現が女性的表現より遥かに多く広く使われていた。全体的には、男性は女性より男性的表現を多く使っているが、引用相手が男性の場合の外、不定の発話、自分の発話や思考を引用する際、女性は男性と同じくらい男性的表現を用いたことが明らかになった。また、2種類の引用マーカーのそれぞれの使用回数を見てみると、女性が女性の発話を引用するケース以外、女性は男性よりも緩和類を使用する割合が高いことが分かった。

4.2　分析

量的結果を参照しながら、ここでは、具体例を見ていくことでジェンダー表現の引用句における表現効果と使われ方の特徴を分析する。

4.2.1 女性的表現

量的結果に示されたとおり、女性的表現は一か所しか現れなかった。会話例4はこの唯一の女性

[5] 後ろに「言って」の崩れた形「つって」が来ることが多い。

[6] 例えば下記の例である。

M4：「あなたにはゴリラはちょうどいいけど私は断ります」みたいな。

M7：「私はいっこうにかまわん！」

[7] 引用相手が特定の人物ではなく、男女を含む集団や一般的な思考・発話のことを指す。

[8]「元話者」とは引用句の元々の発話者のことである。

[9]「引用者」とは他人・自分の発話や思考を引用した発話者のことである。

的表現の現れた引用句を含めた会話である。

会話 5：F10 は自分が観た海外ドラマを紹介する

F10： なんかこの前海外ドラマ見てて、なんか、浮気され、浮気がばれた女の人がいて。でなんか、あのう、あれ、うん、同性愛のカップルなんですけど、

M4： （笑）こういう話だった。

F10： 相手の女の人に、相手の女の人に、あ、浮気されたほうの女の人にすごいなんか、で、わか、私はちゃんと分かったみたいな、あなたが好きなの[10]みたいな感じで言って、その時の言いわけじゃないけど、許してほしいというときに、なんかもう彼女と会うことも一切ないし、連絡もとらない、電話とかもしないなんか彼女のことを考えることもしないみたいな（略）

F10 はテレビドラマのキャラクターの話を引用する際「なの」という女性的な表現を使っている。ここはドラマというフィクションのキャラクターの発する言葉のため、現実の女性より女性的表現が現れやすいと考えられる。実際、今回のデータでは女性の言葉に対する引用は男女の引用者合わせて 29 か所あり、表 4 にその内訳を示す。

このように、元話者が女性の場合とはいえ、女性的な表現が使われるのはわずかに 1 例で、それもフィクションの中に出てきた女性であった。特に引用者が男性の場合には中立的表現が最も多く使われている。つまり、女性の発話を引用する男性は、その発話を中立的表現で再現しているケースが最も多かった。

表 4　元話者が女性の場合引用句の内訳

	女性的表現	男性的表現	中立的表現	その他（方言や創造の語尾）
男性	0	1	17	1
女性	1	2	3	4

4.2.2 男性的表現

表 3 に示されているように、男性的表現は数多く表れ、幅広く使われていた。まず男性が男性の発話を引用する際、男性的表現を使うという最も多いケースの例を見てみよう。

会話 6：七輪焼きをやらせてもらうために、M7 はゼミの先生が学校の事務との交渉の経緯を再現している。

M7： （前略）そうそう、これで「ちょっとここはだめということで、で、渡り廊下もだめになって」いうふうに言っていまして。「あっじゃ、私が直接話すんで、電話貸してください」って【M4 うん】[11] 先生が言って。「いや、それはちょっとご遠慮ください」みたいな感じ、なって、「いや、でも我々は元々聞いてなかったわけだし、ちゃんとそれはだめだということは、あのう、言ってくれなきゃ困る」。「しかも私は 20 年間ずっとここでやってきたし、急にだめだと言われてもそれはそっちおかしい」って、【M4 うん】「ということで折り合いましょ

[10] 引用句を網掛けで表し、その中のジェンダー表現をアンダーラインで表示する。

[11] 【　】であいづちを表す

うよ」とか言って、で（先生が）[12]「後で、後でほう、教授会とかで報告しますよ」とか言って、それで（警備員が）「ああどうぞしてください」みたいな、で、学、学部長呼んできて、で学部長が先生に、こう、とこに来て「①いやあ、●くん、すまんね」みたいな感じ、「②どんどんやってくれ」みたいな。（後略）

M4：　どこの教授？

M7：　えとね、刑事、刑事法、刑事訴訟法

M4：　ああ

M7：　刑法、刑法だよ。「③君は規則的には間違っていない！」みたいな感じで（中略）だってさ、先生「あのちょっと上のもんと相談してきます」と言って【M4 うん】、って言った瞬間に「④今のうちホルモン全部やっとけ」つって（皆笑）没収されるかもしれないです。

この会話の中の引用句①②③は学部長の先生に対する発話で、④は先生の学生たちに対する発話である。いずれも立場が上の人物の下の人物に向けての発話であるが、実際にそのまま発話されたとは考えにくい。「すまん」というくだけた音声、「てくれ」「やっとけ」という命令形や上から目線の感じられる「君」という男性的表現はこのような社会的な上下の力関係を明示している。また、学部長が先生に対して使う男性的表現は上下関係以外、男性同士の間の絆を表現する機能もあると考えられる。

次の会話例 6 は女性の自分自身あるいは性別不定の発話の引用句に現れた男性的表現である。表 3 に示されているように、この種のものは女性の引用者が男性的表現を使う時、最も多いケースである。

会話 7：会議で寮の写真部部長である F11 は部員たちに写真をもっと積極的に撮るように勧める。

F11：　じゃちょっと、第 2 部というか、①写真、写真の話するぜ、俺っていうつもりで＃＃。ちょっと最近皆さんが、写真部が、みんな写真撮るのが好きで私は大変嬉しいです。で、えっと、あ、せっかくなので、写真部組むというか、みんなで、②ちょっと頑張って写真撮ろうぜ、みたいな感じです。（略）それからだれよりも先にカメラを使う。③あっ今日の集会、まだ誰も写真撮ってねえなぁみたいな時にやっぱ、誰も撮ってないとなんか撮れない空気になっちゃうんですよね。

上の発話では、①と②は自分の発話を引用の形を借りて表現するもので、③は性別不定の他人の気持ちを引用しているものである。①と②に使われている「ぜ」「俺」は強い呼びかけを標示していると考えられる。「写真の話をする（よ）」や「ちょっと頑張って写真撮ろう（よ）」よりも呼びかける気持ちの強さが伝わる。音声から見ると、引用句の部分だけ他より高いテンションで発話され、ここにはわざと大げさに表現し、演じている要素も含まれていると考えられる。F11 は普段、自分のことをいう時、「俺」を使うことがなく、ここでは、自分の普段の言葉遣いとのギャップを利用しながら、大げさに感情を表現し、ふざけたニュアンスを出すために使っているのであろう。③の引用句では、写真部部長の「だれよりも先にカメラを使う」という気持ちを描くためのものである。写真部の部員に誰も写真を持ってない場面に遭遇すれば③の気持ちになって写真を撮ってほしいということを伝えたいのである。ここでは、「撮ってない」よりも「撮ってねえ」のほうが、ぞんざいな気持ちがより伝わる。ここでは、「撮ってない」よりもぞんざいな「撮ってねえ」の方が会議の雰

[12]（　）で省略された主語と笑を表す。

囲気をより気楽なものにし、その場にいる部員たちは部長により親近感を抱くことになるだろう。このように、F11 は男性的表現を使うことで力強い勧誘行為を行うだけではなく、より気楽で楽しい会議の雰囲気を作り出そうとしていると考えられる。

会話 8：子どもとのキャンプに行う植物探しゲームについての事前打ち合わせ。担当者の F9 が説明を行う。

F9： で、えーと、カラー印刷のものを班に一つ配って、これ 5 枚あるんですよ。これを、子どもたちに全部こう、こうやって見ててやらすのが難しいという話になったんで、一枚一枚ぐらい渡して、で、①これ探して来いみたいな。

M7： ②お前はこれや、みたいな。

（中略）

F9： この豆知識結構書いて、M15 が書いてくれたんで、あのう、その＃の時とか、合わせて…

M7： この豆知識は子ども用にも書いてあるの？

F9： 書いてないです。

M7： これでちょっと俺たち威張れるね。

F9： そうです。（笑）

M7： ③下向いているらしいぜって

引用句の①と②は大人が子供に対して行う実際の発話ではなく、F9 と M7 が想像している発話である。男性的表現が使われることで大人対子どもという関係性が露わになり、大人の高圧的態度が表現される。また、③の引用句は「よ」よりも「ぜ」のほうが強い伝達態度を表すことができ、M7 の直前の発話「俺たち威張れるね」と対応する。「ぜ」を用いることで、より感情を込めることができている。

会話 9：F15 と F12 が何日前 M21 の行動に対する感想を言う。

F15： しかもさ、止めるかと思ったらさ、

F12： 食べますからね。

F15： 最後見たらさあ、何も入ってないけんね。

F15： ①こいつ完食したなとかおも（笑）しかもさ、最後のメール、メーリスで回しよるけん。

F12： そう、あれがだめだったよね。もう止めを刺したよね。あれで。②ああ、こいつほんとバカやなって終わりやだのが、あのメーリスが回ってきたことによって③こいつほんとバカや（笑）

M24：変わってない（笑）

F12： 何も学習してない。

会話 8 では F15 と F12 の驚きとあきれた気持ちをぞんざいな男性的表現で表している。中性的な表現「（この人）完食した」、「（この人）ほんとバカ」で言い換えて内容は伝えたが、社会的意味と自分の気持ちが伝えられず、不自然になる。また、もう一つ興味深いことに、F12 と比べて F15 はより控えめで、男性的な表現を使うことに対する躊躇いが見られた。F12 は「って」というはっきりした引用のマークを使用したり、もしくは③で引用のマークを省略してしまうことで、F12 より男性的表現をかなりストレートに使っている。これに対して、F15 は①を引用する際、「とか」という緩和表現を使って引用句を直接に自分の気持ちと結びつかせることを避けた。

女性が男性的表現を使う際、このような「緩和」は他にもあった。会話 10 を参照されたい。

会話 10：写真部の部長の F11 が写真部に入りたい人に写真を撮る時の心構えを伝えた後、それを実行するように呼びかける。

F11：（前略）これはちょっとまだまだ改良の余地があると思うんですけどひとまず、ですね、えっと 1 番ひたり上が写真部から、え、ということで、もう写真部に入りたい方はこの 5 点は一年間を通してクリアせよという感じです。

この会話では F11 は部員たちに写真撮る時にしてほしいことを述べて、実行するように求めるのに、「せよ」という命令表現を使っている。それと同時に、自分の発話を引用の形を持って強い命令表現緩和している。そのまま命令表現を使うと発話すると押し付けがましくて乱暴に聞こえるため、ここでは F11 はそれを緩和するため「という感じ」という引用マーカーを使って自分の発話をまるで他人の発話のように客観的にとることで強い命令表現を間接的に発することができた。

5.　考察

本稿では、大学生の自然会話の引用句に現れたジェンダー表現の使われ方及びその機能を観察した。ここでは、男性的表現と女性的表現の不対称性および社会規範が言葉遣いに及ぼす影響について、結果・分析に基づいて考察する。

5.1　男性的表現と女性的表現の非対称性

量的な分析結果によると、引用句においては男性的表現が女性的表現よりもはるかに広く、多く使われていたことが示された。具体例の分析では、女性的表現はテレビドラマの登場人物の引用句にしか現れなかった。一方、男性的表現は元話者が男性の場合に限らず、元話者が女性、引用者自分および性別不定の人物という様々なシチュエーションで使われていた。また、引用者の性別に関わらず、元発話における強い姿勢、ぞんざいな気持ち、上下関係を明示したい時には男性的表現が使われていたことも分かった。このことから、男性的表現は、元話者の男性という性別に結びついているというよりも、所謂「男性らしさ（力強い・荒っぽい・ぞんざい等）」と結びついていると言うことができよう。

今回のデータでは女性的表現は一か所しか現れなかったが、陳（2011）によると、テレビの雑談番組においては女性的表現が現れることがあるが、それらの元話者は女性で、殆どがお淑やかなお嬢様という伝統的なステレオタイプの「女性像」を描くのに使われていたと言う。視聴者に楽しんでもらうために多少演出が加わったテレビの雑談番組と比べ、自然会話ではこのようなステレオタイプの「女性像」を描くシチュエーションがあまりないため、女性的表現はほとんど現れなかったのであろう。今回のデータでは、元話者が女性の場合には、ジェンダーと関わりなく中立的な表現が最も多く現れることも明らかになった。このように、ステレオタイプの女性像およびそれに結びついた女性的表現は人々の日常生活とはかけ離れた存在となっていると言えよう。

5.2　社会規範の影響

今回のデータでは、女性が男性的表現を使う際に引用マーカーの「とか」「みたいな」「なんて」による緩和が男性より割合が高かった。また、自分の発話を引用句にすることでその中に含まれる強い伝達態度を緩和する現象も見られた。これらの現象は女性が強い男性的表現を使う際の躊躇を示したものと考えられる。男性的表現の使用について、女性話者のほうが男性話者よりも男性性と関連した特性である横暴性の印象を強く持つことが報告されている（有泉 2007）。「あらっぽい」、「ぞ

んざい」や「ぶっきら棒」等男性性と結びついた特性・気持ちを表現するのに、女性が自分の発話を故意に引用句にしたり、何らかの形式を用いて緩和したりすることを通してより間接的な表現にするということは、ジェンダー表現の使用に関する人々の社会的規範の存在を示唆するものである。つまり、社会的に女性に対しては強い言語ステレオタイプの規範が存在しているが故に、女性はその規範にあからさまに反することのないような、しかし、同時に自身の主張を明示することが可能な言語表現を用いていると言えるのではないだろうか。

6. まとめ

本稿では、大学生の自然談話をデータに量的分析と共に質的分析を行うことで、ジェンダー表現の引用句における使われ方を考察した。女性的表現が限られた文脈で一か所しか現れなかったのに対して、男性的表現は引用者と元話者の性別に関わらず数多く使われていた。このことから、男性的表現は使用者の性別よりむしろ「男性性」と関わる諸特性を表すのに機能しているのに対して、女性的表現は伝統的なステレオタイプの女性像との結びつきが強いためその表現性は現実とはかけ離れている、というジェンダーにおける非対称性が示された。また、女性の引用者は自身の発話の引用に際して男性的表現を間接的に使うことがあるが、その場合でもその男性的表現は緩和表現等を使って和らげられていることが明らかにされた。このことは、社会的に女性に対する強い言語ステレオタイプの規範が存在することを示唆するものと思われる。

参考文献

有泉優里（2007）「文末形式のジェンダーが話者の印象に及ぼす影響」,『社会言語科学』9（2）, pp.3-16
石塚ゆかり（2003）「日本語の談話における引用表現の機能―中国人日本語学習者と日本語母語話者の比較から―」,『青森明の星短期大学研究紀要』29, pp.79-88
小川早百合（1997）「現代の若者会話における文末表現の男女差」,『日本語教育論文集』凡人社, pp.205-220
鎌田修（2000）『日本語の引用』, ひつじ書房
金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語役割語の謎』, 岩波書店
佐竹久仁子（2003）「テレビアニメの流布する『女ことば / 男ことば』規範」,『ことば』24, pp.43-59.
鈴木睦（1989）「いわゆる女性語における女性像」,『近代』67, 神戸大学近代発行会, pp.1-17
鈴木睦（1997）「女性語の本質－丁寧さ、発話行為の視点からー」, 井出祥子（編）『女性語の世界』, 明治書院, pp.59-73
砂川由里子（1988）「引用句における場の二重性について」,『日本語学』7（9）, pp.14-29
高崎みどり（2010）「自然談話の中の引用表現の実態と分析」,『お茶の水女子大学人文科学研究』6
因京子（2003）「マンガに見るジェンダー表現の機能」,『日本語とジェンダー』3
―――（2006）「談話ストラテジーとしてのジェンダー標示形式」,『日本語とジェンダー』ひつじ書房: pp.53-72
陳一吟（2010）「大学生の雑談に表れるジェンダー表現の機能」,『日本語とジェンダー』10
辻大介（1999）「若者語と対人関係」,『東京大学社会情報研究所紀要』57 号, pp.17-42
藤田保幸（1988）「『引用』論の視界」,『日本語学』7（9）, pp.30-45
マグロイン・花岡直美（1997）「終助詞」, 井手祥子（編）『女性語の世界』明治書院, pp.33-41
益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法－改訂版－』くろしお出版

村松明（1981）『日本文法大辞典』明治書院
水本光美（2006）「テレビドラマと実社会における女性文末詞使用のずれにみるジェンダーフィルタ」，『日本語とジェンダー』ひつじ書房，pp.73-94.
水本光美・福盛壽賀子・高田恭子（2008）「ドラマに使われる女性文末詞――脚本家の意識調査より」，『日本語とジェンダー』8
水本光美・福盛壽賀子（2007）「主張度の強い場面における女性文末詞使用―実際の会話とドラマとの比較―」，『国際論集』5，北九州市立大学，pp.13-22
メイナード・泉子・K（1997）『談話分析の可能性 －理論・方法・日本語の表現性－』くろしお出版
メイナード・泉子・K（2008）『マルチジャンル談話論－間ジャンル性と意味の創造－』くろしお出版 .
山路奈保子（2006）「小説における女性形終助詞『わ』の使用」，『日本語とジェンダー』6
Clark, Herbert H and Richard, Gerrig（1990）Quotation as demonstration, *Language*, 66, pp.764-805

Gender-markers in Japanese Quotations:

An analysis of naturally-occurring conversations of college students

Yiyin CHEN and Yoshiko MATSUMURA

When people quote speech or thought of themselves or of other people, they do not quote it directly, but describe it on their own words (Clark & Gerrig 1990；Kamata 2000). This paper analyzes the usage of gender-markers in Japanese quotations. Analyzed materials are quotations found in naturally-occurring conversations of Japanese college students. Quantitative and qualitative analyses of the data have reached the following two results. First, male markers are used frequently by both male and female speakers, regardless of the sex of the speaker of quoted speech; on the contrary, there is only one female marker found in the quotations. This result suggests that male markers are related to strength, violence, or other masculine characteristics, while female markers are related to the stereotype of traditional Japanese women. Second, when female speakers quote men's language, they quote them indirectly or they soften their language with softeners or modifiers. The above results suggest that the use of male markers by female speakers is socially limited and restricted.